

顧客本位の業務運営に関する取り組み状況

2024年6月現在

UBS アセット・マネジメント株式会社

当社は、金融庁が公表した「顧客本位の業務運営に関する原則」に掲げられた7つの原則を採択し、当社の取り組み方針及び本取り組み状況を公表しています。

なお、当社は投資運用業を行っており、「原則 5. 重要な情報の分かりやすい提供」の(注2)および(注4)、「原則 6. 顧客にふさわしいサービスの提供」の(注1)、(注2)および(注4)は該当しません。

1. 「重要な情報の分かりやすい提供」への継続的な取り組み（原則 4, 5, 6 に対応）

当社では、「重要な情報の分かりやすい提供」を推進するべく、全社的に主に以下の点に継続的に取り組んでいます。

- お客様向け資料(旧:販売用資料)および目論見書における取り組み
当社が提供する運用商品の特長やリスク、魅力を分かりやすくお伝えする取り組みとして、お客様向け資料(旧:販売用資料)および目論見書の改善を継続しております。なお、信託報酬や外国籍投資信託に投資する場合にかかる費用などの手数料については、お申込みメモや目論見書等を通じて分かりやすい表示を継続しています。
- 投資関連情報の提供力強化への取り組み
お客様の投資リテラシー(情報・知識の活用能力)向上に貢献できるよう、販売会社との連携強化や情報提供力の強化に努めています。
コロナ禍において活用が進んだオンラインを中心としたセミナーに加えて、積極的に販売会社の支店を訪問する勉強会も販売会社のご担当者向けに開催し、当社設定ファンドの特長や魅力をより深くご理解頂く機会をタイムリーに提供できるよう努めております。
ご好評いただいている、販売会社のご担当者向けに、ランチタイムの限られた時間に目を通していただけるとお役に立つような、わかりやすくかつ独自の視点を提供するマーケットレポートの提供も継続しています。
- 重要情報シートを通じた情報提供
販売会社より提供される重要情報シートを通じてお客様へ適切な情報開示がなされるよう、当社設定ファンドに関する商品特性や顧客属性などについて、販売会社への情報提供を行っております。

2. 「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティの維持（原則 2, 6 に対応）

- 営業部門とクライアント・サービスの緊密な連携による「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティを維持し、投資家のお客様から直接頂いたお問い合わせに迅速かつ的確にお答えしております。
- コロナ禍における緊急事態宣言下等において、留守番電話対応となった代表電話へのお問い合わせをメールにて把握し、速やかに回答を準備して折り返す体制を確立しましたが、より効率的かつ的確なコミュニケーションを実施でき、ご好評につきこの体制を継続しています。
- また、2024 年よりスタートした、新 NISA 制度に適合する投資信託の開発及び既存商品の必要な変更を実施しております。中長期の資産形成をこの制度を通じてさらにサポートしていきます。

3. ポートフォリオ提案型資産運用サービス提供の強化（原則 2 に対応）

- お客様に、運用力の優れた運用商品を提供する取り組みを継続しつつ、お客様の中長期の資産形成に貢献し得る、ポートフォリオ提案型資産運用サービスの提供を強化しております。
これは、富裕層向けの金融サービスが成熟しているヨーロッパを出自とし、長年にわたって世界中に展開している、アセットアロケーションや運用商品選定、ポートフォリオモニタリングの能力と経験を販売会社を通じて、ポートフォリオ提案型資産運用サービスのかたちで提供する取り組みです。
特に、ポートフォリオモニタリングに関するサービスは、長年培ってきたモニタリング能力を最新のテクノロジーによって実装したポートフォリオ管理ツールが、お客様の資産形成目的に適したアセットアロケーション案を構築し、ポートフォリオの状況を日々確認しながら、ポートフォリオ改善案を販売会社のご担当者へ自動的に提案することで、販売会社がお客様の中長期の資産形成を包括的にご支援するサービスです。

4. 利益相反の適切な管理（原則 3 に対応）

利益相反管理の重要性と管理体制を周知し、適切な管理を行うため、以下の取り組みを行っています。

- 利益相反管理方針の概要は当社ホームページにて公表しています。
- 利益相反管理を主要テーマとしたオンライン研修や利益相反管理を含むコンプライアンス研修を定期的実施するほか、利益相反管理方針を含む重要な社内規程について、よく読み内容を理解したことをオンラインで定期的確認する手続を、全従業員向けに実施しています。
- 各部の責任者による月次の自主点検項目に利益相反管理状況に関する項目を含めてコンプライアンス部門に報告、コンプライアンス部門は、経営に重大な影響を与える、または顧客の利益が著しく阻害される事項が発生した場合もしくはその恐れがある場合、速やかにリスク委員会に報告する体制としています。

5. プロダクトレビュー会議による網羅的な検証（原則 6 に対応）

- 定期的開催されるプロダクトレビュー会議において、お客様のニーズを満たす質の高いサービスを継続的に提供していることの確認を継続しております。

6. リスク委員会における継続的な協議（原則 6 に対応）

- 月次で開催されるリスク委員会において、お客様の最善の利益の追求を目指した運用が継続されていることの確認及び適宜改善策等の協議を継続しております。

また、当社がホームページに開示した成果指標(KPI)である当社設定ファンドのリスク・リターン分布状況に関し、ファンドのリスクと比較してリターンが不芳なファンドについては、プロダクトレビュー会議における精査に加えて、リスク委員会においても継続的にモニターし、運用目的に沿った運用が行われていることを確認しております。

7. 従業員に対する適切な動機付けの枠組み（原則7に対応）

- 従業員の評価については、単年度の業績評価だけでなく、以前より「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」に掲げておりますパーパスやバリュープロポジションに加え、以下の「Behaviors」といった行動指針に基づいての評価も行うことで、長期に正しい企業文化を醸成、維持することに努めています。
 - Accountability with integrity – 「責任意識を持って誠実に取り組む」
 - Collaboration – 「グループ丸となって業務に取り組む」
 - Innovation – 「より良いサービスのために日々進歩する」
- また、質の高い資産運用サービスをお届けするべく、特に運用者の評価については、運用しているファンドのパフォーマンスも評価に反映させる仕組みとなっています。これらの仕組みが、顧客に長期に支持される資産運用会社たるために貢献するものと確信しています。また、各種トレーニングや、部門を超えたメンタリング・プログラムなども実施しており、資産運用会社の意義を様々なかたちで社内に伝えるとともに、従業員一人ひとりの高い専門性の維持向上に努めています。

8. 成果指標(KPI)について(2023年12月末現在)（原則5に対応）

当社が開示している成果指標(KPI)である、当社設定ファンドのリスク・リターンの分布状況について、2023年12月末現在までの過去4年間の推移は以下の通りです。

概況

- 2023年は、前年に引き続き世界的なインフレ懸念が燦ってはいたものの、欧米での利上げ幅の縮小観測などを背景に、株式市場は上昇基調でスタートしました。3月には、欧米における金融システム不安などに伴い一時反落したものの、その後は概ね上昇基調を維持しました。金融引き締め懸念などを背景に米国10年国債利回りが4%を超えると、株式市場は再び軟調に推移しましたが、利上げ打ち止め観測の台頭を受け、欧米の長期金利が低下に転じると株式市場は反発、今後の利下げ見通しとともに上昇基調となりました。(NYダウは年間で14%の上昇、S&P500種株価指数は24%の上昇となりました。日経平均株価は年間で28%の上昇となり、年間で2年ぶりの上昇となりました。)
- かかる環境下、2023年12月末時点での当社設定ファンドのおよそ半数が、過去3年および過去5年においてリターンでプラスとなりましたが、今後もお客様の中長期の資産形成に貢献し得る運用商品を持続的に提供すべく、運用チームがその能力を最大限発揮できる環境形成とタレントの確保に努めます。



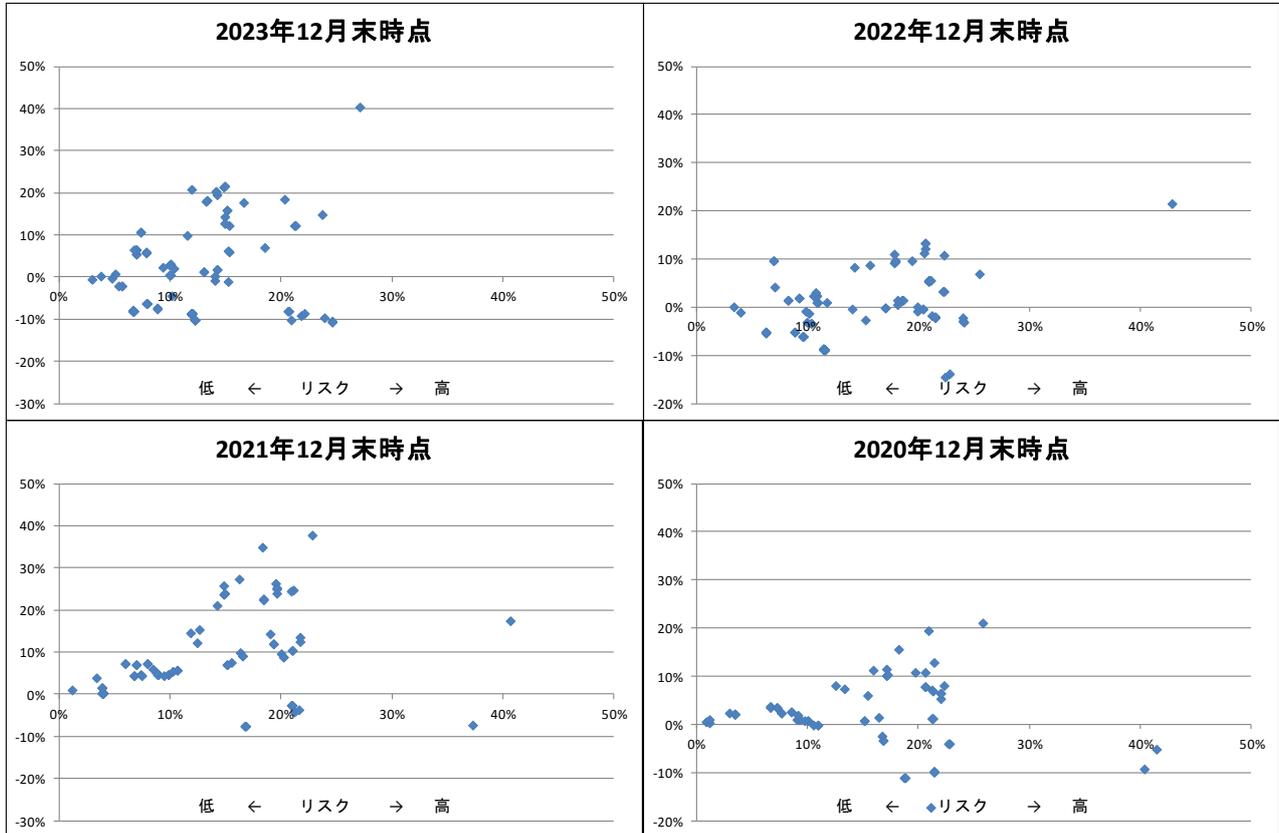
- 全ファンド単純平均のリターンは、過去3年では年率0.0%から9.1%の間で推移、過去5年では1.8%から6.4%で推移し、計測時点毎に差異が生じています。これは、主に2023年とそれ以前の市場環境を反映しています。
- リスクに関しては、引き続き過去3年および過去5年において全時点で全ファンド単純平均のリスクが年率12%から16%の間で推移しており、各ファンドのリスク水準にも大きな傾向の変化は見られませんでした。
- なお、2022年に続き、リターンとコスト(信託報酬)の関係を示す分布も掲載します。おおむねコストが高い投資信託ほどより大きな付加価値を提供すべく、リスク・リターンが高い傾向にありますが、2022年以降の市場環境下では、より高いリスクが奏功しない部分もありました。

<3年リスク・リターン分布>

※各時点、設定から3年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去3年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※リスク:各時点において、過去3年分の月次リターンの標準偏差を年率換算しております。

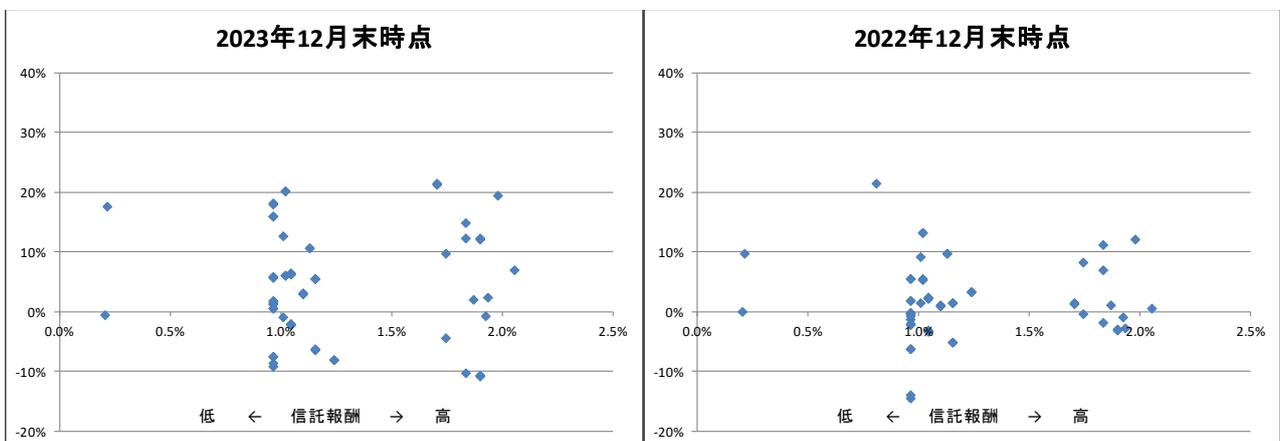


<3年コスト・リターン分布>

※各時点、設定から3年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去3年分の月次リターン値を年率換算しております。

※コスト:年間の信託報酬です。外国投信に投資するコストなど信託報酬以外のコストは含みません。

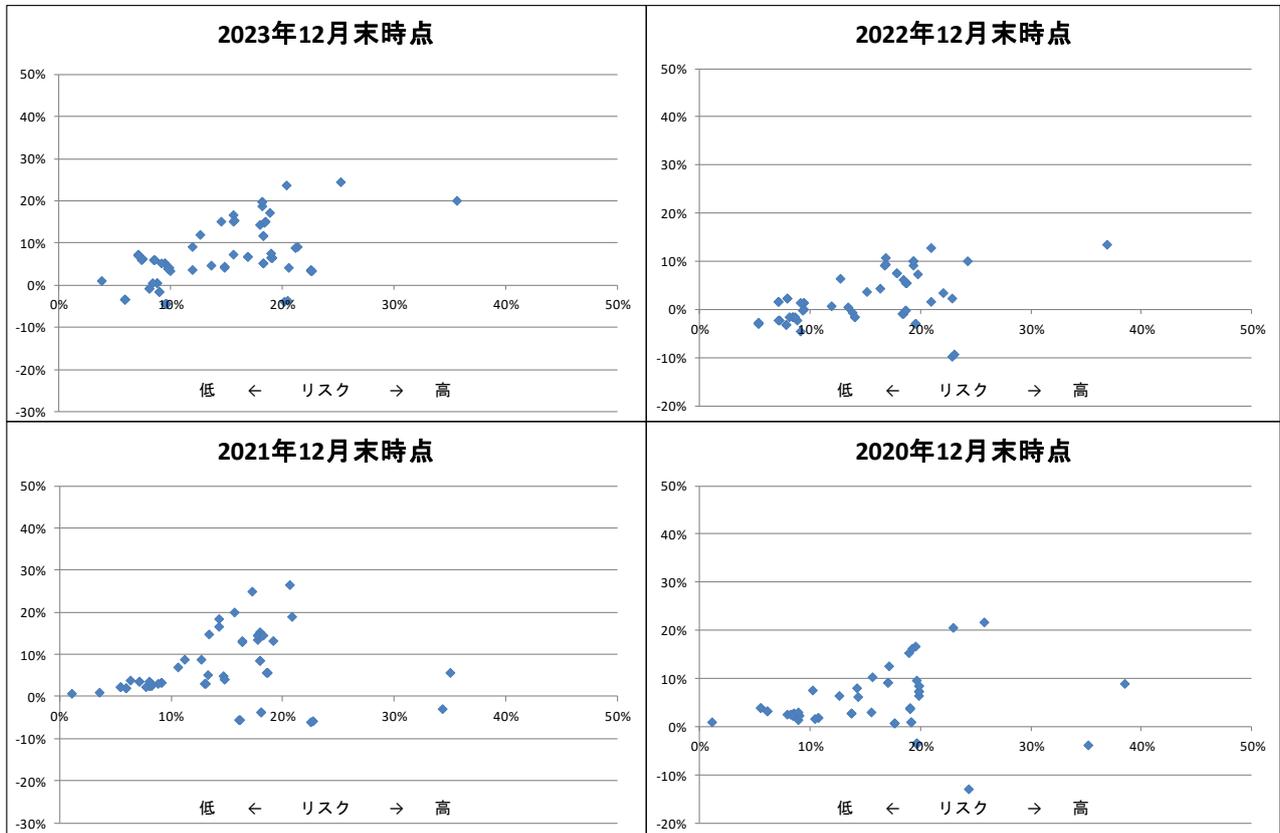


<5年リスク・リターン分布>

※各時点、設定から5年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去5年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※リスク:各時点において、過去5年分の月次リターンの標準偏差を年率換算しております。

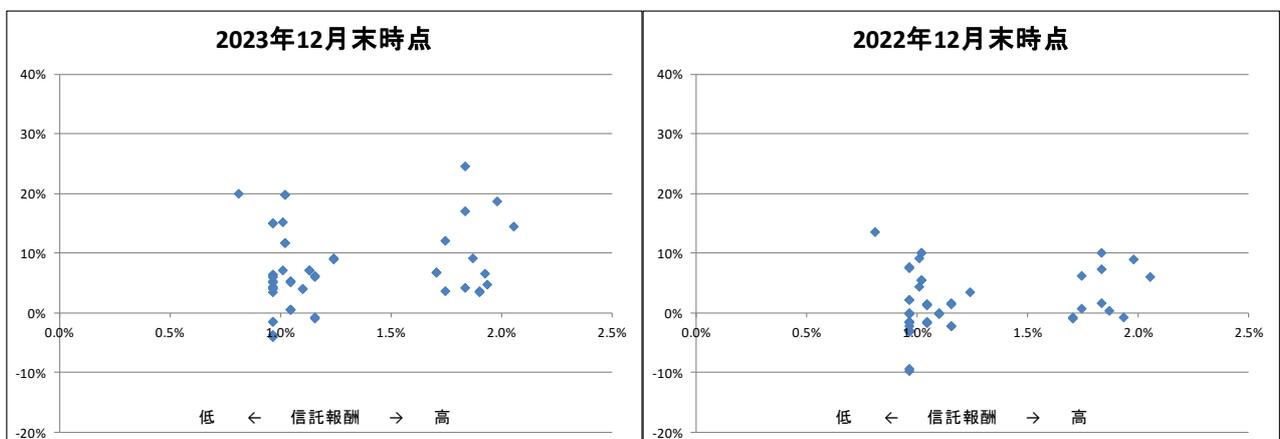


<5年コスト・リターン分布>

※各時点、設定から5年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去5年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※コスト:年間の信託報酬です。外国投信に投資するコストなど信託報酬以外のコストは含みません。



以上